



# あじさい

相模原市立宮上小学校  
学校だより

2026年5月29日

3号

～それぞれの色・様々な色～



## 自分の好き！を極める

大木 真理

「あじさい」がシンボルの宮上小では、**それぞれの花の色が違うように、一人一人の「好き」や「得意」を大切にしてほしい**と伝えて

います。校内にもけん玉名人や鉄道博士、プロ顔負けのアニメキャラクターを描く子など、好きなものをとことん楽しんでいる子たちが沢山います。

さて、**6月13日は「はやぶさの日」**。市立小中学校で、はやぶさ給食が提供されます（本年度は12日）。2010年6月13日に小惑星探査機はやぶさが地球に帰還したことを受け、本市で制定されました。宇宙科学研究所 JAXA が中央区にあり、進行中のはやぶさ2のプロジェクトマネージャー津田雄一さんは、相模台小・中学校の卒業生。本市と深く関係しています。

津田さんのお話をうかがったことがあります。本ばかり読んでいる少年だったこと。小学生の時にフロリダのスペースシャトル発射台を見学し、宇宙に興味をもったこと、目の前の「好き」に熱中しながら今にたどり着いたことなど…。偉大な科学者ですが、子どもの頃の姿が、瞳を輝かせて何かに熱中する本校の子どもたちと重なります。

そして興味深いのは、探査機には、日本の科学者でなければ考え付かなかっただであろう技術が使われているということです。探査機を推進させる太陽光パネルを開くのは、何の動力も使わず遠心力で広がる折り紙の技術であり、小惑星にターゲットマーカを打つ際、無重力の宇宙で跳ね返ってしまうという課題を解決したのは、技術者のお子さんのおもちゃ箱にあった、落としても跳ねないお手玉だということなど…。最先端の科学技術の中に、日本ならではの折り紙やお手玉のヒントがあるなんて、なんだか誇らしい気持ちになりました。

はやぶさが数々のトラブルを乗り越えて地球にたどり着いたのは、夢をあきらめずに、チームで解決していった人たちがいたからです。**好きなものを極めること、チームで協力しながら大きなことを成し遂げること。**これらは、**宮上小のめざす姿「あじさい」につながります。**子どもの頃に、「こうしたい！あんなったらいい！」と願いながら、頭や体を使って一生懸命に学ぶこと、遊ぶこと、関わること、そして苦勞することを大切にしていきたいと改めて思っています。

お子さんが今、夢中になっているのはどんなことですか？これが好き！って言えるものがあるのは素敵なことです。子どもたちが体験していることは、すべて夢の種。将来にわたって、いつ芽を出し、花を咲かせるか分かりません。どうぞ、キラキラの瞳を応援してください。

